

D 学校設定科目（2年）

1 特別講演

1. 1 極限の話（数学分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

集合から写像（主に単射）の話をもとに極限の導入部分まで学習し、数学の奥深さや有用性を体感させる。

(2) 研究開発の経緯

最初に、Mathematics の語源の話から始まり、集合の知識を利用して写像（主に単射）から極限の導入部分まで学習した。事後アンケートを実施することにより、事後指導とした。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は数学への関心や創造力・理解構成力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH数学β

対象生徒 普通科2年理系生徒 5クラス

実施日時 11月10日（木）

9:55～12:15（2クラス）

12:55～15:15（3クラス）

実施場所 本校 視聴覚室

実施内容

講演 演題 「極限の話」

講師 三重大学教育学部 教授 新田 貴士 先生

内容 写像と極限に関する講演



講演の様子

ウ 検証（成果と反省）

(1) 内容に興味・関心を持ってましたか？	26	42	21	11
(2) 内容は理解できましたか？	49	38	8	5
(3) 自分の能力やセンスの向上に役立ちましたか？	15	42	26	17
(4) 将来の自分の進路選択の参考になりましたか？	12	33	33	22
	■はい	□大体そうである	■あまりそうではない	□いいえ
	(%)			



質問に答える生徒

生徒の感想から

- ・いつもとは異なる視点から物事を見たりする内容でとても新鮮だった。もっと難しい内容だと身構えていたが、わかりやすく説明していただきとてもよかった。
- ・極限の性質についてもっと詳しく知りたかった。

アンケート結果や生徒の感想から、生徒にとって興味・関心が高まったことがわかる。内容も比較的平易だったせいかよく理解できたようである。今回の講義を通じて、数学の面白さを感じることができたと思う。これを機に積極的に数学を研究する生徒が出てきてほしい。